

# I . 2014 年度FD活動の総括

## I. 2014年度FD活動の総括

人文学部におけるFD活動は年間行事に組み込まれて教員間に定着しており、今年度のFD活動も例年通り、研修会・講演会・学生アンケート等を行い、一定の成果が得られた。各活動の具体的内容は本報告書の当該箇所を参照いただきたいが、その中で特に言及すべきは次の二点である。

一つは学部生による「授業改善のためのアンケート」でWeb入力を行ったことである。授業アンケートは教員と学生の双方にとって教育の質を向上させる重要な手段となるため、FD活動における重要な柱として本学でも継続的に実施されてきている。しかし一方で、大量の紙媒体を用いて毎学期授業時間内に行うことには疑問が呈されており、それを解決する方法としてWebアンケートの導入がこれまでの人文学部FD委員会でも検討されてきた。そして昨年度からFD委員の数も半減し、FD委員会の活動も一層の効率化が求められることから、今年度初めてWeb入力を試験的に実施するにいった。その方法はアンケート対象科目の半分をWeb入力とし、前期後期のいずれかで人文学部専任教員がWebアンケートを体験するというものであった。その結果は「Ⅳ. 学部生による授業改善のためのアンケート」に詳しく記述されている。事前に懸念された回収率低下の問題は克服できなかったが、Webアンケートは紙媒体を用いる従来のアンケートに比べて、授業時間確保や省資源そして利便性の点で優れることは人文学部教員に認識されたことが、「Ⅶ. 教員によるFD活動の総括とFD活動のアンケート」からわかる。けれども、その円滑な実施には解決すべき点が多いことも明らかになっている。ただWeb入力そのものを強く否定する意見はなく、紙媒体に代わるアンケート手段として今後実施方法の改善と整備を進めていくことが望まれる。

二つ目は講演会のテーマを「配慮が必要な学生への対応」に絞って、2回行ったことである。5月は学生個人のプライバシーに配慮しつつ可能な限り具体的な対応について本学の専門カウンセラーに話をしていただいた。9月の講演会は、障害のある学生を積極的に受け入れている日本福祉大学の先生に事例を紹介していただき、また一般的対応についての知識も提供願った。そして事前に人文教員から募った質問を講師に届けておき、講演会の場で回答していただくことも行った。こうした講演会を開いたのは、今年度入学の複数の学生および保護者から大学側へ連絡があったからである。これは大学当局だけでなく、実際に授業を行い学生に接する教員にとっても切実な問題であり、例年の講演会に比べて強い関心を集めたことがアンケートからもわかる。講演の内容は本報告書の「Ⅲ. FD講演会」に収録されているが、個人のプライバシーに配慮して省略した部分があることをご了承ください。

各教員がより良い授業を行うために、そして今後増加するであろう多様な学生にいかに対応するかを課題として、今後もFD活動には地道な努力が必要とされるだろう。

2014年度FD委員会委員長 藤田伸也